

第四節——風流の祭りと芸能

節概説

風流とは

本章で用いる「風流」という語は、フウリウと読まずフリーウという。風流とは、華やかに飾り立てた意匠で人の目を驚かせる趣向をいい、平安時代の祇園御霊会や賀茂祭りの物見車で風流の趣向を競ったことはよく知られている。



写209 山女原の太鼓踊り

『下学集』に「俗に拍子物と呼ぶに風流という」とあるように、それは芸能に取り入れられて一つの様式とされた。佐賀県を中心とする肥前国では、華やかな作り物や仮装などをして笛・鉦・太鼓などで囃したり踊る芸能を「浮立」と呼ぶ風流の芸能がある。滋賀県内にはさまざまに異なる太鼓踊りが各地に伝承されている。いずれも趣向を凝らした衣裳を身にまとい、何



写210 瀬樹神社のケンケト踊り

楽町にまともって伝承されている。

また、囃子物（拍子物）と呼ばれる風流の芸能が、湖南地域から湖東南部さらに甲賀へかけて分布する。草津市や守山市などの湖岸部ではサンヤレ、蒲生郡から甲賀市へかけてはケンケトと呼ばれるが、そのなかで瀬樹神社（土山町前野）のケンケト踊りは近江を代表する風流囃子物の一つである。

こうした太鼓踊りや囃子物とは別に、中世に盛んに行われた、獅子舞・王の舞・細男の舞や、田楽・田遊び・御田植え神事などは、文献資料や油日神社（甲賀町油日）の福太夫面、ずい子などの実物資料としては確認されるものの、民俗芸能としてほとんど残存していないのは惜しまれる。かろうじて佐土神社（水口町貴生川）のオンダや、檜尾神社（甲南町池田）のお田植え祭りにその痕跡が垣間見られるにすぎない。

曲も保有する小歌を踊る場に合わせ、て演じる風流踊りである。それらはいくつかに分類できるが、甲賀市には、その一群が土山町・甲賀町・信



写211 大原祇園のハナパイ

までも執着せず、新しく流行した芸能を取り入れる精神が滋賀県人にはあるのかもしれない。風流の祭り行事としては、祇園祭りにおけるハナパイ（花奪い）行事が特徴的である。県内において祇園祭りは各地で行われているが、民俗行事として注目される祇園祭りは甲賀市内



写212 水口曳山祭

の祇園花行事だけであろう。京都の祇園祭でもなく、愛知県津島市の天王祭でもない、独特の行事が甲賀から伊賀に展開していて、古くからこの地域が国境を越えて一つの文化圏を形成し、影響し合ってきたことを如実に物語っている。

都市祭礼としての風流の祭りは曳山祭りで、長浜曳山祭が滋賀県を代表するものとされるが、水口曳山祭に巡行する曳山は、長浜形の芸屋台とは異なり、露台に風流の趣向を凝らしたダシと呼ばれる造り物を飾るタイプの屋台で、日野曳山祭（日野町）とともに一つの分布域を形成している。

また、江戸の祭り囃子の影響を受けたとされる囃子は、少しテンポの速いのが特徴で、水口宿が東海道の宿駅であったことも関係してか、「水口囃子」として名高い。